

やまきわ美術館
Yamakiwa Art Hotel
350 Kamiebiike, Tokamachi, Niigata, Japan
info@yamakiwagallery.com www.yamakiwagallery.com

By Indirections Find Directions Out

プレスリリース

作家：

パトリシア・ドミンゲス、ラブ・エンクェスト、ガイア・フガッサ、ドミニク・ハウグッド、マリアナ・マ
グダレーノ、メアリー・ハレル、カルロス・サントス、ジュリア・ヴァレラ

キュレーター：

パウラ・ロペス・ザンブラーノ

日程：2018/08/1-9/2 10am- 17pm 火一日

オープニング・レセプション：7/29 14- 16pm

メアリー・ハレルによる新作パフォーマンスの上演

ワークショップ：パフォーマンスや音声を用いた作品をメアリー・ハレルと作ります。

予約制・参加費無料

第一回 2018.7.31 9:30- 11:00am Choir Fade 「消えゆく合唱」

第二回 2018/8/3 9:30- 11:00am Writing for a silent music 「沈黙の音楽のための筆記」

予約・問い合わせは下記の連絡先までお願い致します。

E. info@yamakiwagallery.com T. 025-594-7667

助成：在日メキシコ大使館、グレートブリテン・ササカワ財団

MÉXICO
GOBIERNO DE LA REPÚBLICA



やまきわ美術館

Yamakiwa Art Hotel

350 Kamiebiike, Tokamachi, Niigata, Japan

info@yamakiwagallery.com www.yamakiwagallery.com

概要：

本プロジェクトは、キュレーターであるパウラ・ザンブラーノ（メキシコ・英国）による、やまきわ美術館におけるレジデンス、そして彼女による海外作家の作品選別と展示構成からなっています（作家：パトリシア・ドミンゲス(チリ)、ラブ・エンケスト(スウェーデン)、ガイア・フガッサ(イタリア)、ドミニク・ハウグッド(英国)、マリアナ・マグダレーノ(メキシコ)、カルロス・サントス(メキシコ)、ジュリア・ヴァレラ(スペイン))。同時にメアリー・ハレル(南アフリカ・英国)も滞在制作を行い、動作を組み合わせたサイトスペシフィックな作品を発表しました。彼女はパフォーマンス・彫刻的な衣服・音響を用い、時間と空間の模索を行っています。

プロジェクトの理論的な枠組みは、二種類の時間の組み合わせからなっています。一つは、アートホテルやまきわ美術館を一時的な非定住者のための施設、あるいは人が短期的に行き来するための場所と捉えて、その条件のもとに規定される時間です。二つ目は、自然、歴史、文化など、越後妻有地域の恒久的・定住的な条件によって形作られる長期の時間属性です。

'The Shape of Time' (1962) の中で、ジョージ・キューブラーは美術史における時間の研究方法について考察しています。アメリカ人美術史家にとって、時間とは心と同様に理解し難いものであり、その中で起こる事柄によってのみ、間接的に知り得ることができます。時間を理解するためには、変化と永続の過程を観察することが必要になるのです。ここでまず、歴史的な時間は出来事の直線的な連なりとして捉えられているため、破れや空白の場がそこには生じることとなりますが、最終的にはこれが出来事をつなぐものになります。他方で、生物学的な時間は「生命」と呼ばれる間断のない出来事を含んでいます。生命においては、破れや空白はありません。生物学的なタイプの時間から見ると、アートは連続段階的な発展を伴う自由なシステムと考えられます。¹

歴史はこの二つの時間の考え方を規律としているが大きな制約を抱えていると、キューブラーは言います。彼によると、直線的・進歩的な時間と間断のない生物学的な時間はともに、アートの読み間違いにつながります。この二つの考えでは、彼が言う「時間における真の間欠性」を説明することはできません。彼は電気力学の用語を用いることを提案し、アートに見られる、エネルギーの多方向な発散現象をより正確に表現しようとしています。アートの体験は直線的でも進化的でもなく、時折起こるカオスの爆発をとまなう不規則なものです。

¹ George Kubler, *The Shape of Time, Remarks on the History of Things*, (New Heaven: Yale University Press, 1970).

やまきわ美術館

Yamakiwa Art Hotel

350 Kamiebiike, Tokamachi, Niigata, Japan

info@yamakiwagallery.com www.yamakiwagallery.com

By Indirections Find Directions Out はこのような考えに触発されつつ、新潟・十日町市の緑の山々と田んぼの中にある伝統的な日本の農家という文脈の中で、時間の不可知を探るための創造の方略とアートのかたちを、星座のように集めています。そして時間的・地理的な並置状況、すなわち、現代アートの中に現れるアナクロニズムの経験とシンクロニシティの瞬間に視線を注いでいます。これは、アートが内部に持ち、生み出し、私たちに送り出すメッセージとエネルギーの変質や改変に結びついています。時間との直接的・間接的な関係の中で、「もの」や「こと」、場所と身体が形を作り、変形し、成るための、多方向で間欠的な道筋をたどっています。

メアリー・ハレルは、日本のやまきわ美術館におけるレジデンスの成果として、サイトスペシフィックなパフォーマンス'ちょう'を制作しました。舞踏と能という日本の伝統的な演劇、そして日本の歴史と文化における多様な'女性'性の象徴としての着物のリサーチから、この作品は着想を得ています。衣服と音響は多層化、移動、翻訳、変質の過程、そして自然の要素から発展しました。パフォーマンスはギャラリー内を歩くこととその他の動作からなっていて、内部と外部の層を一つに圧縮しています。彫刻的な衣服、移動するサウンドスケープを通して、動作が即時に展開し形を作られるのです。

カルロス・サントスの暗いイメージは、砕かれた黒の大理石、合成繊維、動物の炭、植物の顔料、コンクリートの派生物、ポリウレタン、灰、建築資材の防水材料を使っています。彼の作品の特徴は、質感、燃焼と切断の痕跡、触覚、強調された物質感、使われている要素の土的な性質です。生と死の諸相、変質、自然とアルケミーについて、作家はここで語っています。同時に、作家の背景にある建築や社会政治についての論説を、可塑的な言語に置き換えています。言い換えると、場所・構造・空間の参照となるものを抜き出し、生の物質、さらにはアートに変換しているのです。

ドローイング作品である *The Imprint of Strength* (力の刻印) において、**マリアナ・マグダレーノ**は内なるリズムと自然の潜在的な鼓動についての物語を語っています。死に近づくまで17年間地下で過ごすセミの誕生を描き、そのサイクルを生の間とともに写しています。その他に、昼閉じ夜開く多年草の花、一晩だけ花を咲かせ翌日には死ぬサボテンの花ケレウス、渡り鳥、芋虫から蝶に変化するオオカバマダラ、永遠を象徴する石、繊細で儂い時の経過を表す煙が描かれています。このドローイングは直線的な時間軸に沿っていて始まりと終わりがある物語ですが、イメージ内部では多くのことが起こり、幾つもの時間層へと私たちを導き、自然と時間の中で辿ることのできる魔術・霊性・力を主張しています。

ドミニク・ハウグッドによる *Sacred Source* (聖なる泉) は照明、視覚効果、水のアッサンブラージュです。ハウグッドの作中、様々な形をとる要素は直近の作品 *Casting Out the Self* (自己を映し出す) の中にも現れており、デジタルの美とシャーマニズムを探求しています。心理的な領域を探索し、実世界の経験を仮想空間の中に写しています。

やまきわ美術館

Yamakiwa Art Hotel

350 Kamiebiike, Tokamachi, Niigata, Japan

info@yamakiwagallery.com www.yamakiwagallery.com

パトリシア・ドミンゲスのデジタルコラージュは、作家の夢の中に現れたイメージです。 *Shapeshifter Lines* (変身する線) は先コロンブス時代の文明と大企業が存在する現代社会の複雑な交わりを示唆しています。チリ固有の世界観から大企業の要素やオフィスの辛さなどの出来事への変換を考察しています。例えばここでは、ディアギータ文化の遺物を使って、通勤用のシャツを着た男が背中を擦っています。現在アタカマ砂漠は、石灰を採掘する企業と石炭火力発電会社によって支配された土地となっていて、ドイツのオフィスで締結された契約が、チリの天然資源をほぼ即座に動かしています。しかし、オフィスでの仕事やコンピューターの前での長時間作業は苦痛を生みます。彼女が描くビジネスマンは疲れた体に陶器の欠片を使って慰めを求めています。

ジュリア・ヴァレラによる *Mehr Fantasie* (さらに空想を) は、電子廃棄物とその環境への影響について問題提起をしています。プラズマスクリーンや 아이폰などのデジタル機器廃棄物を細かい塵にし、それをコンクリートや粘土のように固く均一な物質に変化させ、体の上にのせられるようにしています。この使われなくなった機器類は、現実を見るための仮想のレンズから物質、すなわち灰へと変換されています。この灰はギャラリーの中で彫刻として展示され、また、生物の体に組み合わせられたビデオ作品となっています。

ガイア・フガッサは、歌うカエルの湖と三匹の豹 (三位一体) を展示しています。ゴム・チョーク・マニキュアから作られており、これらは物質としての性質だけではなく象徴としての意味からも考えられた素材です。このイメージは植物、動物、幾何学的な形、自然の要素を、人間と同等であり感情を分かち合うことができるものとして感覚的に写しています。アニミズムの考えと組み合わせさせた、種族間の、より強い関係への願望がここにはあります。彼女の作品には、遊牧性、植物、シャーマニズム、生殖、複合的な存在、実験や儀式、神性について考えさせられます。

視覚詩 *The Language of Flowers* と映像作品 *The Tree Circus* の中で、ラブ・エンクェストは暮らしの過程と生の状態について考察しています。アクセル・エランドンはスウェーデン出身のアメリカ人農家で、生前樹木を整形し続け、ついにはカリフォルニアにツリーサーカスを開きました。アクセルにとって生きた樹木を彫刻することは人生をかけたプロジェクトで、生け花の伝統に沿うものでした。彼の意図は、装飾的で幾何学的な形に育つよう、樹木を仕立てる実験を行うことでした。彼の死後何本かの木は生き延びて、カリフォルニア・ギルロイの庭園に移されましたが、多くの木は失われました。残されているのは口伝えの歴史、何枚かの写真と樹木です。(植物建築に興味を持つ建築家によって保護されました。)

やまきわ美術館

Yamakiwa Art Hotel

350 Kamiebiike, Tokamachi, Niigata, Japan

info@yamakiwagallery.com www.yamakiwagallery.com

By Indirections Find Directions Out

Press Release.

Artists:

Patricia Dominguez, Love Enqvist, Gaia Fugazza, Dominic Hawgood, Mary Hurrell, Mariana Magdaleno, Carlos Santos, Julia Varela

Curator:

Paula Lopez Zambrano

Dates: 2018.8.1- 9.2

10am- 17pm Tues-Sun

Opening: 7.29 2-4pm

Performance by Mary Hurrell.

Workshop by Mary Hurrell

Creation of artworks with performance and sounds.

Reservation required.

Free of charge.

Dates:

2018.7.31 9:30- 11:00am Choir Fade 「消えゆく合唱」

2018.8.3 9:30- 11:00am Writing for a silent music 「沈黙の音楽のための筆記」

Please contact Yamakiwa Art Hotel for the details.

予約・問い合わせは下記の連絡先までお願い致します。

E. info@yamakiwagallery.com T. 025-594-7667

Supported by Mexican Embassy of Japan, Great Britain Sasakawa Foundation.



やまきわ美術館

Yamakiwa Art Hotel

350 Kamiebiike, Tokamachi, Niigata, Japan

info@yamakiwagallery.com www.yamakiwagallery.com

Description:

Curator Paula Zambrano (Mexico/U.K.) has been invited to carry out a curatorial residency in Yamakiwa Gallery. She presents an exhibition including artworks by Patricia Dominguez (Chile), Love Enqvist (Sweden), Gaia Fugazza (Italy), Dominic Hawgood (U.K.), Mariana Magdaleno (Mexico), Carlos Santos (Mexico), Julia Varela (Spain). In parallel, Mary Hurrell (South Africa/ U.K.) has been invited to carry out an artist residency. She presents a site specific artwork by combining movement, and exploring time and space through performance, sculptural garments and sounds.

The theoretical framework combines two notions of time: the first one, which is defined by the conditions of Yamakiwa Gallery and Art-Hotel, is understood as a temporal and nomadic establishment, or a place where people come and go in journeys on a short-term basis. And the second notion of time, which is outlined by the Echigo-Tsumari region of Japan, defined by its permanent and sedentary condition, distinct by its nature, history and culture: a long-term temporary dependency.

In his book ‘The Shape of Time’ (1962), George Kubler studies the methods used to study time within Art History. For the American art historian, time, like the mind, is not knowable as such. We have access to it only indirectly by what happens in it. To understand time is necessary to observe processes of change and permanence. On the one hand, historical time is understood on the basis of the linear sequence of events. Hence, there are ruptures and empty spaces –which ultimately connect such events. Biological time, on the other hand, contains uninterrupted events, these are called ‘lives’ –in life, there are no ruptures or voids—. Under the lenses of the biological type of time, art is conceived as a free system with successive stages of development.¹

Kubler argues that the historical discipline uses these two modes of conceiving time, but they have great limitations. According to him, both the linear/progressive time, and the uninterrupted/biological time, lead to misread art. These two conceptions cannot account for what he calls ‘the true intermittency of time’. Therefore, he proposes to use the language of electrodynamics, which can express with more accuracy the phenomenon of the multidirectional transmission of energy that happens within art. The experience of art is not linear or evolutionary, but irregular with spaced bursts of chaos.

Inspired by these ideas, and in the context of a traditional Japanese farmer’s house located in the green mountains and rice fields of the village of Tokamachi, Niigata, **By Indirections Find Directions Out** gathers a constellation of creative strategies and artistic forms that access the unknowability of time. It points out cultural and geographical juxtapositions; experiences of anachronism, moments of synchronicity, produced, represented and manifested in contemporary art. It alludes to the changes and alterations of the messages and the energy that art contains, produce and transmit to us. It traces the various routes, the multidirectional paths, the intermittent courses by which things, matter, places and bodies shape, transform and become, within indirect and direct frames of time.

Mary Hurrell has created ちょう, a site-specific performance to culminate her artist residency at Yamakiwa Gallery, Tokamachi, Niigata, Japan. The performance has been inspired by her research into traditional forms of Japanese performing arts, in particular Butoh and Noh, and kimono as a symbol for multiplicities of the feminine within Japanese history and culture. The garments and sound work have been developed through processes of layering, transfer, translation, transformation and natural elements. The performance takes the form of a walk or movement through the gallery house, compressing layers of internal and external spaces; through sculptural garments and a travelling soundscape, the movement will unfold and become sculpted in real time.

¹ George Kubler, *The Shape of Time, Remarks on the History of Things*, (New Heaven: Yale University Press, 1970).

やまきわ美術館

Yamakiwa Art Hotel

350 Kamiebiike, Tokamachi, Niigata, Japan

info@yamakiwagallery.com www.yamakiwagallery.com

The dark images of **Carlos Santos** contain black crushed marble, synthetic fibers, animal charcoals, vegetable pigments, concrete derivatives, polyurethans, ashes and waterproof materials for the construction of buildings and houses. His work is characterized by texture, traces of burns and cuts, a sense of tactility, and an emphasis on the physical, earthly and material qualities of the elements that he employs. The artist address aspects of life and death, metamorphosis, nature and alchemy. He also translates architectural and socio-political discourses from his context into plastic language. In other words, he extracts references of places, structures and spaces, and transforms them into raw matter but also into art.

The drawing *The Imprint of Strength* by **Mariana Magdaleno** tells a story about the internal rhythm and latent pulse of nature. It represents the birth of a cicada, which spends seventeen years underground, until its death, portraying this cycle along with the interval of its life. Thus it shows perennial flowers closing and opening during the day and night; a 'night blooming cereus', which is a cactus that blooms only for one night and dies the next day; a migratory bird; the transformation of a caterpillar into a monarch butterfly; stones that symbolize eternity; smoke, which marks a subtle and ephemeral lapse of time. The drawing runs through a linear timeline: it has a narrative, a beginning and end, but inside the image, many things happen, and they take us through several temporal spheres, advocating in favour of the magic, spirituality and power that can be traced in the relationship of nature and time.

Sacred Source by **Dominic Hawgood** is an assemblage of light, optics, and water; elements that take different forms within Hawgood's practice, and are present in his most recent project *Casting Out the Self* which explores digital aesthetics and shamanism. He investigates psychological space and reflects on the experience of the real world within the virtual.

Patricia Dominguez' digital collages are images that appeared to the artist in a dream. *Shapeshifter Lines* alludes to the complex intersection of traditions from pre-Columbian civilizations and the corporative contemporary world. She examines the transfers of indigenous cosmologies in Chile into corporate matters, and office aches and incidents. Through an ancient object from the Diaguita culture, a man wearing a corporative shirt, rubbers his back. The Atacama Desert is a land now dominated by lime extraction industries and coal-fired power generation companies. A contract signed in an office in Germany moves almost instantly natural resources in Chile. But, work in the office and long hours in front of the computer produces pain. The business men she represents uses the ceramics on their tired bodies to look for relief.

Mehr Fantasie by **Julia Varela** raises questions about electronic waste and its impact in the environment. Digital waste such as plasma screens and iphones have been reduced into dust. They have been transformed into solid, rigid substance, similar to concrete or clay, able to be applied on the body. These irrelevant dispositives have transformed from being virtual lenses of reality into physical matter, into ashes. The ashes are displayed as sculpture in the gallery and incorporated in the body of the creatures the artist captures in a video.

Gaia Fugazza presents *Lake of Singing Frogs* and *Trinity Panther*: two artworks made of rubber, chalk and nail polish; materials approached for their symbolic properties as much as for their physical ones. These images portrait plants, animals, geometrical forms and natural elements with a sense of sentience: equal to people and capable of shared emotions. There exist a desire for a stronger intra-species relationship, interlacing within an animist landscape. Her work lead to think about topics such as nomadism, botanic, shamanism, reproduction, multiple presences, experiments or rituals and divinity.

In his concrete poetry *The Language of Flowers*, and his film *The Tree Circus*, **Love Enqvist** examines the process of living and the condition of life. Axel Erlandson was a Swedish American farmer who shaped trees during his life and eventually opened a Tree Circus in California. It was a life-time project for Axel to sculpt growing trees and fits into Ikebana tradition. The intention was to experiment with and train trees to grow in ornamental and pure geometric shapes. A few trees were saved after his death and moved to Gilroy gardens (California). But most of his trees are lost. What remains are oral history. Some photographs and a few saved trees (which were saved by an architect interested in botanic architecture).